

日野市の各小学校でボランティアを募集します

(学校支援地域本部事業)

日野市内の各小学校において、地域の方々のボランティアを募集いたします。

ボランティアをしていただく分野は、学習支援、環境整備支援、登下校の児童の見守り、学校行事支援の4つの分野があります。

各分野の一例

- ① 学習支援
家庭科の授業実習や本の読み聞かせなど、先生の指示の下で地域のボランティアの方が補助をして、子どもたちの手助けをします。
- ② 環境支援
学校の花壇の整備やピオトー
- ③ 登下校の見守り
子どもたちの学校と家との行き帰りの際の交通安全や不審者からの見守りをします。
- ④ 学校行事の支援
運動会等の校門付近の交通安全や自転車置場の整理などがあります。

※各学校により募集するボランティアは異なりますので、詳しくはお近くの学校または文化スポーツ課までお問合せください。

環境支援ボランティアの活動 (日野第三小学校)



ボランティアによる植樹



整備された中庭

日野第三小学校では、学校支援地域本部のボランティア・PTA本部役員・三小親児の会・周年記念事業実行委員会・保護者・地域・職員約50名の方に参加していただき、中庭の植樹を行いました。たくさんの方のご協力により、すばらしい中庭になりました。これから一年ごとの木の成長が楽しみです。(平成21年10月24日)

(文化スポーツ課)

ふるさと日野と出会う場所 郷土資料館へ

日野市郷土資料館は、旧高幡小学校校舎内にあります。建物に入ると小学校舎の頃から使われていた下駄箱や卒業記念の作品があり、当時の面影が残されています。そんな建物の3教室に「ふるさと日野」に関する様々な資料が展示され、幅広い年代の方々が展示見学に訪れます。展示の楽しみ方や利用の仕方、注目する資料もそれぞれです。郷土資料館の展示や活動について来館者の様子とあわせて紹介します。



建物は学校そのもの

昔の道具から「あの頃」を思い出す

○廊下にある足踏みオルガンを弾いている親子：「低学年の教室にはこんなオルガンがあったなあ」と語るお父さん。なんとこのオルガンがかつてあった日野第六小学校の卒業生でした。

○石炭ストーブを前に：「日直が石炭を取りに行くんだよね」とある世代以上の共通の思い出でしょうか。

○年配の団体さん：「こんな足踏みミシン使っていたわね、裁縫箱には針刺しの坊主がついていて」話が弾みます。資料館の職員が教わることの方が多そうです。



昔の道具が詰まった民俗収蔵展示室

年配の来館者はこれらの道具と出会うことで、昔のことを思い出します。そして、実物の道具を前に語ることで、それらの道具を使ったことのない子どもたちが、かつての暮らしを想像できるようにになります。世代を超えて人から人へ昔の暮らしが伝えられていきます。

当館で収蔵する昔の道具の多くは、日野にお住まいの方が、家で大切にしていたものを資料館に寄贈したものです。資料館は、これらの道具を収集・保存し、公開することで、日野の歴史や文化などを伝えていく役割を担っています。また、昔の道具だけではなく、古文書や標本など、日野についての様々な資料を資料館は収集保存しています。

日野再発見！野外にでかけるきっかけづくりに

○「クジラの化石って昭島じゃなかったの？」：昭島クジラは有名ですが、日野でもクジラの化石が多摩川で発見されています。今から約150万年前の「ヒノクジラ」の化石やアケボノゾウの牙と足跡の化石が収蔵展示室にあります。化石の野外観察会も毎年実施してきました。



化石は見つかるかな… 多摩川にて

○「七生丘陵散策コースへは、ここからどうやって行くのでしょうか？」：時折散策コースや史跡のある場所を訪ねる来館者がいます。現在開催中の企画展示「七生丘陵の自然とくらし」(7月11日まで)では、ハイキングコースの案内や、七生丘陵地域で見られる植物・昆虫・野鳥の写真、ハイキングコースからの展望パノラマ写真、かつての平山城址公園の絵葉書などを展示しています。展示がきっかけとなり、七生地域の歴史や自然に目を向けていただければ幸いです。

資料館は展示のほかに、野外観察会や史跡めぐりの機会も提供しています。展示とあわせて空の下にも出向き、日野の自然や文化に親しんでみませんか。(郷土資料館)



七生丘陵を写真や資料で紹介

当館の展示や催しは「広報ひの」・ホームページでご案内しています。

日野市郷土資料館

日野市程久保550
電話：042-592-0981
月曜休館(祝日の場合は翌日)

古代の暮らしを実感!!

復原住居の公開と火起し器体験

文化スポーツ課(文化財係)では、日野中央公園南西角(神明2-13)の復原住居を公開し、火起し器体験を行っています。



マイギリ式の火起し器

復原住居

復原住居は、昭和56年に公園の市庁舎側入口付近の発掘調査で発見された、奈良時代末〜平安時代初期(約1200年前)に神明地区にあった住居を復原したものです。床面は地表から35cmほど掘り下げられ、南側に入口が、北側にはカマドがあり、カマド近くには土壁になっています。そのほかの壁と屋根は茅で作られ、屋根が側柱で支えられていることから、竪穴住居が近世の住居に発達してゆくはじめの頃の姿を示していると考えられています。

また、土間は半分に区切られ、カマドの前の部分は炊事や屋内作業の場に、もう半分は糊殻や籾を敷いて寝床として使用していたと考えられています。

この復原住居は原則として毎月1回公開し、カマドに火を入れていきます。公開日は『広報ひの』等でお知らせしています。



復原住居

火起し器体験

復原住居の公開日には、敷地内で火起し器体験も行っています(雨天・強風時を除く)。これはマイギリ式といって、はずみ車をつけた木棒を回転させて台木とこすり合わせ、着火させるものです。小さなお子さんでも大人の手助けがあれば火を起すことができますので、チャレンジしてみたいかがでしょうか。

歴史の勉強は小学校6年生から始まりますが、古代の生活を気軽に実感できる機会です。ご来場をお待ちしています。

(文化スポーツ課)